

科目名	国際情報論特殊研究	担当者	ヤスエ 安江 ノブオ 伸夫	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	日本が守る普遍的価値を否定する権威主義国家が台頭する背景と、メディアの果たすべき役割についての知識を修得すること（一般目標(GIO)）により、行動目標(SBOs)に示す能力を身につけることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>情報空間とメディアの変容を軸に、戦後の日本の民主化と、冷戦後に旧社会主義国を中心に起きた権威主義の台頭を俯瞰する。民主化が実現し持続する条件についての知識を修得する。メディアや民衆が果たすべき役割を知り、異なる価値観の社会と共存できる人間力を創造する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>①民主主義とは常に問題点を指摘し、修正できる仕組みであることが説明できる。(知識・想起)</p> <p>②日本の国際報道が米国の発信する情報に大きく影響を受けていることを知る。(知識・解釈)</p> <p>③米国と中国が対立する大きな国際的背景を説明出来る。(知識・問題解決)</p> <p>④民主化しない大国(中国)、民主的に強権指導者が選ばれた国家(旧ソ連・東欧)、民主化から無秩序が生まれた国家群(中東)。これらに関係づけ説明できる。(知識・解釈)</p> <p>⑤ネットやSNSの普及が、極論を対立させる傾向を招いていることを知る。(知識・問題解決)</p> <p>⑥権威主義国家の中国では、民衆の監視や言論弾圧が結果的にコロナ禍の早期克服につながり、権威主義の台頭に追い風になっていることを知る。(知識・想起)</p> <p>⑦日本でも今後、権威主義的な政治の傾向が強まると言われる。すでに自民党政府を批判する、リベラル派の言論は社会からバッシングにあう。この状況説明に応用できる。(知識・問題解決)</p> <p>⑧民主化や言論の自由が実現するために必要な条件を法則化し測定できる。すなわち民主化には、格差の縮小、社会分断の融和、教育・司法・警察の整備、報道言論の自由などが必要だ。(技能)</p> <p>⑨政治体制やメディア環境の異なる国や社会との意思疎通に必要な態度が身につく。(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本教材及び参考図書等を熟読する(自習)【SBO①&②】 課題に沿って、事例やデータを収集し、問題点を抽出、分析する(自主研究)【SBO②&③】 抽出した問題点を論ずるに必要な文献・資料を検索・整理し、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(レポート作成)【SBO②&③&④】 上記の過程で、manaba folioの掲示板機能を利用した受講生同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生とのディスカッション、メールなどで疑問点に関し、相談・質問する。(ディベート)【SBO②&③&④&⑤】 <p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>1単位(課題レポート1本分)につき最低45時間の学修時間を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本教材・参考文献の読み込み、データの探索：20時間 レポート執筆：10時間 レポートの推敲、教員の添削指導：15時間 <p>1科目4単位に対し、45時間×4の時間が必要ということになる。</p>		
スケジュール	<p>前期【教材1】:「草稿」提出:レポート課題1は第11回(7月中旬)、課題2は第13回(7月下旬)。「最終稿」は、レポート課題1、課題2のいずれも「学事歴で定められた日」までに提出する。</p> <p>後期【教材2】:「草稿」提出:レポート課題1は第11回(1月初め)、課題2は第13回(1月中旬)。「最終稿」提出:レポート課題1、課題2のいずれも「学事歴で定められた日」までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポート内容を、問題設定・論理的展開・歴史的展開・問題提起の面から検討し、全体の記載方法、注・参考文献の適切性・記載方法、最新の研究の反映や、ご自身の研究分野との関連性などを評価する。
	観察記録	20%	スケジュールの順守の度合い、メールの送受信の状況、質疑応答の内容などを勘案する。
履修者への要望	日本が海外からどう見られているかを知るため、ニューヨークタイムズ(ネット版)の日本に関する記事を読むことを勧める。国内メディアではテレビのほか、新聞は左派の『朝日新聞』、右派の『産経新聞』、経済界よりの『日本経済新聞』を3紙読むことをすすめる。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： イワン・クラステフ, スティーヴン・ホームズ (立石洋子 訳) 教材名： 『模倣の罠 自由主義の没落』(中央公論新社, 2021年)</p> <p>「米国を模倣」してソ連東欧は冷戦終焉後に民主化した。中国は、天安門事件で「模倣」を拒否したが、米国流の市場経済など「良いとこ取り」をした。ソ連崩壊後の1992年、「世界は民主主義に収斂する」と論じたフランシス・フクヤマ『歴史の終わり』の予想を誰もが信じた。だが見込みは外れた。民主化に失望したロシア東欧は逆走し権威主義に変わった。独裁を通じた中国は米国の国力を抜く見込みで、民主化できない国々のリーダーになりつつある。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・アン・アブルボーム (三浦元博 訳)『権威主義の誘惑 民主政治の黄昏』(白水社 2021年)：権威主義に向かうロシアや東欧のみならず、排他主義に向かう米国・英国の疲弊についても論じた。 ・ブランコ・ミラノヴィッチ (西川美樹 訳)『資本主義だけ残った 世界を制するシステムの未来』(みすず書房 2021年)：権威主義の中国経済の今後を肯定的に論じた。 ・ジェニファー・ウェルシュ (秋山勝 訳)『歴史の逆襲 21世紀の覇権, 経済格差, 大量移民, 地政学の構図』(朝日新聞出版, 2017年)：独裁崩壊の中東, 難民の東欧, 破綻のロシアを論じた。 ・石澤靖治 編著『政治コミュニケーション概論』(ミネルヴァ書房, 2021年)：米国で駐在記者経験のある日本人研究者らがメディアを論じた良書。国際社会での日本の立ち位置が見える。
履修上のポイント	<p>米国と中国が国際社会の主導権をめぐって対立している。貿易戦争から始まった争いは価値観押しつけの「情報戦」に突入している。同盟国の米国が発信する情報に日本の国際報道は大きく影響を受ける。一方で中国の報道を通じた情報発信は自国の正当性を主張する宣伝そのものだ。二つの偏った情報の間で日本はどこに立てばよいのか。ゲームチェンジャーの米中を冷静に見ずえたい。</p>
レポート課題 1	<p>教材に示した『模倣の罠』の全体を要約せよ (5000字程度)。その際に、冷戦後の「民主化」から逆行した東欧やロシアの動向や、「民主化」弾圧した中国が、逆に経済も軍事も発展した状況に留意する。凋落する米国の焦り、米国社会の動きや、極論対立を招きやすいSNSの言論空間の動向も踏まえよ。</p> <p>留意点：政府に圧力をかけ、世論を誘導するだけでは、民主化は実現しない。格差の縮小、社会分断の融和、教育・司法・警察の整備、報道言論の自由などが条件として必要になる。</p>
レポート課題 2	<p>中国批判報道が増えている。隣国間ではライバル感情がもともと生まれやすい。そこに米国が盛んに発信する反中情報で、日本も影響を受けてアクセス数が増える。社会現象として報道しないわけにはいかない。だが問題が二つある。情報が逆流する中国の過剰な反発だ。もう一つは、SNSの時代には民衆自身も発信する。感情が高揚しているときに「反中報道は良くない」といった報道を行っても聞く人はいない。中国批判報道はどうあるべきか論述せよ (5000字程度)。</p> <p>留意点：中国政府の対日批判やメディア報道、反日暴動に私たちはどう対応したのだろうか。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： ジョン・ダワー (三浦陽一 訳, 高杉忠明 訳) 教材名： 『増補版 敗北を抱きしめて (上・下)』(岩波書店, 2004年)(岩波書店, 2012年)</p> <p>戦後の日本は米国に大きな影響を受けながら民主化を進めた。だが家族・恋人・友人を殺され、鬼畜米英として憎悪していたはずの米国を日本はなぜ受け入れたのか。ジョン・ダワー作品は、米国一国の支配下で冷戦最前線に立った国際的背景、天皇制を尊重した制度設計、サブカルチャーを使った世論誘導などの分析を論じたほか、米国政府やGHQの動き、受け入れる日本の政治や社会の姿を“物語”として当時の動きをトレースしながら見事に描いた。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・遠藤晶久, ウィリー・ジョウ『イデオロギーと日本政治 世代で異なる「保守」と「革新」』(新泉社, 2019年) ・田辺俊介『日本人は右傾化したのか データ分析で実像を読み解く』(勁草書房, 2019年)
履修上のポイント	<p>日本と米国はお互いに先生と生徒のような「上下関係」のステレオタイプで相手を意識している。ホワイトハウスやニューヨーク・タイムズは日本をどう評価し、批判しているのかが大きなニュースになる。「右傾化」「右派」とは「米国寄り」になることだと考えている人も多い。一方、米国は占領下の日本を民主化させたことを成功体験として捉え、民主化に対する米国の過信に繋がった。</p>
レポート課題 1	<p>教材に示した『敗北を抱きしめて』の全体を要約せよ (5000字程度)。</p> <p>留意点：戦後の日本は米国中心の世界秩序の中において、日本はその中で世界を認識していることを踏まえよ。米国との防衛協力強化は大変重要だが疑問を呈することが憚られる社会になっている。</p>
レポート課題 2	<p>『The New York Times (ネット版)』の日本報道から見える、米国メディアの日本に対するステレオタイプだと思われる部分について論ぜよ。記事は英語の原文が望ましい。ただし、『東洋経済オンライン https://toyokeizai.net/』といった日本メディアが「転載」した米メディアの日本に関する日本語記事でもよい。その場合は、日本メディアというフィルターを通したことによって米紙の記事の切り取り方にどういった偏りが出たかについても言及すること。</p> <p>留意点：ステレオタイプ：日米上下関係、会社社会、人権軽視、男尊女卑、真珠湾攻撃の記憶など。</p>

基本教材 1

第 1 回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①（通読）を行う。
第 2 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第 3 回	教材に基づく学修③を行い、レポート課題 1 のテーマを考察する。
第 4 回	教材に基づく学修④を行い、レポート課題 1 の関連参考図書を渉猟する。
第 5 回	教材に基づく学修⑤を行い、目次を作成する。
第 6 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、レポート作成までの工程表を再検討する。
第 7 回	教材に基づく学修⑦（通読）を行い、レポート課題 2 のテーマを考察する。
第 8 回	教材に基づく学修⑧を行い、レポート課題 1 と課題 2 の関連を考察する。
第 9 回	教材に基づく学修⑨を行い、レポート課題 2 の関連参考図書を渉猟する。
第 10 回	教材に基づく学修⑩を行い、レポート課題 2 の目次を作成する。
第 11 回	レポート課題 1 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 12 回	レポート課題 1 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 1 を作成する。
第 13 回	レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 14 回	レポート課題 2 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 2 を作成する。
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 の最終稿を提出する。

基本教材 2

第 1 回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①（通読）を行う。
第 2 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第 3 回	教材に基づく学修③を行い、レポート課題 1 のテーマを考察する。
第 4 回	教材に基づく学修④を行い、レポート課題 1 の関連参考図書を渉猟する。
第 5 回	教材に基づく学修⑤を行い、目次を作成する。
第 6 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、レポート作成までの工程表を再検討する。
第 7 回	教材に基づく学修⑦（通読）を行い、レポート課題 2 のテーマを考察する。
第 8 回	教材に基づく学修⑧を行い、レポート課題 1 と課題 2 の関連を考察する。
第 9 回	教材に基づく学修⑨を行い、レポート課題 2 の関連参考図書を渉猟する。
第 10 回	教材に基づく学修⑩を行い、レポート課題 2 の目次を作成する。
第 11 回	レポート課題 1 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 12 回	レポート課題 1 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 1 を作成する。
第 13 回	レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 14 回	レポート課題 2 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 2 を作成する。
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 の最終稿を提出する。